

御嶽山火山防災マップ

—小規模噴火（水蒸気爆発）の場合—



降灰・噴石

- 凡 例
- 想定火口範囲
 - 噴石予想到達範囲
 - 降灰予想到達範囲（数字は堆積厚）

■御嶽山で想定される現象

御嶽山が噴火したときにおきる現象を以下に示します。

- 【火山噴火】 ■水蒸気爆発：マグマの近くにある地下水が熱せられ、大量の水蒸気が急速に生成されて爆発を起こします。同時に泥流も発生し、河川をせき止める場合もあります。新しいマグマの噴出はありませんが、火口周辺の岩が砕けて噴石や火山灰として周辺に飛び散ります。
- マグマ噴火：マグマが噴出します。マグマ噴火によって、溶岩流や火砕流が発生します。マグマ噴火に先立って水蒸気爆発が起ることもあります。
- 火口は、次の噴火の始まる場所を決めるのが難しいので、**ゾーンとして表現**しております。

降灰/噴石

2000年・有珠山
(提供:伊藤英之)

噴火によって火口から噴石や火山灰が放出されます。噴石は主として火口から数km以内、火山灰は上空の風に流され、風下側に降り積ります。

火砕流/火砕サージ

1993年・雲仙岳
(提供:柳村 伸・フジテレビ)

火砕流は、高温の火山灰・軽石等が、ガスと一体となり高速で流下する現象です。火砕サージは、溶岩片が少ない高温の砂あらし（爆風）が流下する現象です。

溶岩流

1988年・伊豆大島
(提供:白尾元理)

火口から噴出した溶岩が、地形に沿って流下する現象です。高温であり、溶岩流の通過するところでは、全てのものが焼きつくされます。

融雪に伴う火山泥流

1974年・鳥海山
(提供:宇井忠英)

噴火の熱により、雪が融かされて水になり、岩石や木を巻き込みながら流下する現象です。谷を流れる速度は時速数10kmに達します。

土石流

1993年・雲仙岳
(提供:小山田博之)

火山活動によって堆積した火山灰等が降雨によって渓流を流下する現象です。土石流が谷を流れ下る速度は時速10~数10kmに達します。

ハザードマップに範囲を示していない現象

岩屑（がんせつ）なだれ

1888年・磐梯山
(提供:アジア航測社)

大規模な噴火や地震等により、山体そのものが崩壊して流下する現象です。崩壊した土砂や岩石は岩屑なだれとなり時速100km以上で流れ下ります。

■噴火が始まったら

- ★NHK テレビやラジオや防災無線、広報車で発表される情報、あるいは警察、消防団の方が伝える**情報に注意**しましょう。
- ★気象庁が発表する**火山情報**や、町村長が発表する**避難の勧告や指示**には特に注意しましょう。
- ★避難の勧告や指示があった場合には、それに従って**速やかに避難**しましょう。

ここに示す以外にも「地震」、「火山ガス（普段でも噴煙・噴気には、有害な火山ガスが含まれており火口近くの登山道や噴気地帯、温泉でも中毒を起こすことがあります。）」、「空振（火山噴火等に伴う空気の震えであり、建物や窓ガラスに被害がでることもあります。）」などの災害が発生する可能性があります。